吉祥寺ホーム広報誌

さくせすふるえいじんぐ

第４６号（平成２６年１１月号）　発行日　平成２６年１１月１日

吉祥寺ホーム 創設２０周年記念 第３号

寄稿

「吉祥寺ホーム開設２０周年によせて」

初代ホーム長　澤田　金吾　氏

特集　吉祥寺老人ホーム

利用者手記（吉祥寺ホームに暮らして）

吉祥寺老人ホーム名物【大相撲吉祥寺場所】

開設20周年によせて

吉祥寺ホーム 初代ホーム長
澤田 金吾 氏

吉祥寺ホーム開設20周年おめでとうございます。月日の流れは早いもので、開設からもう20年が経過したのかと思う次第です。

平成４年の頃私が在職していた緑寿園の当時の阿 和嘉男園長より、吉祥寺北町に東京都が老人ホームの建設を計画していることを聞かされました。この事業は、東京都養育院（現・福祉保健局）が所管する板橋老人ホームの老朽化に伴う分散改築計画と、武蔵野市が新規に建設する特別養護老人ホーム等との合築計画でした。日が経つにつれこの建設計画が具体化し、武蔵野市施設の運営が当法人に委託されることになり、その後、東京都施設においても当法人への委託が決定したことによって、「吉祥寺ホーム」全体を当法人が運営管理することになりました。

緑寿園園長より運営に関して澤田が当たるようにとの命令を受けて、身の引き締まる思いでこの任に当たることを決意したことが懐かしく思い出されます。

平成６年の開設を目指して仕事は山積していました。当初は、東京都と武蔵野市担当職員及び設計事務所担当者と、それぞれの立場から意見を出し合いながら綿密な打ち合わせを繰り返し、徐々に設計図が完成していきました。工事着工後は備品類の選定等々を行い、次いで職員の異動や採用へと準備が進んで行きました。工事も順調に進捗し、予定通り平成６年12月に無事に竣工し開設のはこびとなりました。

私は吉祥寺ホーム長と養護老人ホームの施設長を兼任し、板橋老人ホームからの利用者を迎える準備に取り掛かりました。移住に際しては「長年生活をしていた板橋区から吉祥寺の街に馴染んでもらえるだろうか」「居室が今までと違い個室のために同居人もなく自由があるものの寂しさはないだろうか」等々の心配事が絶えませんでした。そうこうしているうちに３ヶ月間をかけて１３０人の移住が終わり、吉祥寺での生活が始まりました。お蔭様で武蔵野市民の皆様のご理解とご協力を頂き、利用者も吉祥寺の街に慣れ武蔵野市民になることができました。

最後に利用者皆々様の幸せと吉祥寺ホームの益々の発展を願っています。

開設後まもない頃の演芸会

ボランティアさんの講習会でのひとこま

吉祥寺ホーム開設記念の集合写真

吉祥寺ホームに暮らして

ご利用者　橋壁弥栄子　様

このホームも開設から20年の月日が流れると聞いて、ここに入所した当時のことが感慨深く思い出されます。

わたしは吉祥寺に来るまでは板橋区内の老人ホームで暮らしていました。そのホームは建物が古い上に３人部屋でした。それぞれに生まれも育ちも違う人たちと暮らすわけですから、同居者と無駄な諍いを避けるための気遣いがいつも欠かせませんでした。

そんな生活に息苦しさを感じていた頃、平成６年12月に武蔵野市の吉祥寺に全室個室の新しいホームが開設されるという案内がありました。３人暮らしを気づまりに感じていたわたしは「今まで一生懸命に頑張ってきたんだから、残り少ない人生を個室でのんびり過ごすのもいいじゃない」という友人の勧めに肩を押されて早速応募しました。

そのうち入所が決まったとの知らせをうけた時は、うれしくて天にも昇るような気持ちになり、夜は同室者には聞かれないように布団にもぐって声を噛み殺しながら泣きました。

吉祥寺への引っ越しは平成７年の２月21日です。当日は朝から雲一つない快晴でした。

朝の10時過ぎに板橋のホームから異動する十数人とともにバスに乗り込み吉祥寺へ向けて出発しました。

住み慣れた下町の風景が過ぎていく車窓を眺めながら、５年前に役所の人に伴われてわずかな荷物を持ち、板橋のホームに着いたときのことをぼんやりと思い出しているうちにバスは吉祥寺ホームに到着しました。

周りの景観に溶け込んだ上品な建物にびっくりしながら、エントランスから中に足を踏み入れると、新築の匂いが漂うなかで多くの職員さんが満面の笑みで迎えてくれました。

すぐに居室に案内されて荷物を簡単に片づけてから、食堂で昼食を頂きました。

ひと休みしたあと、担当の職員さんからホームの設備や生活日課などについて丁寧な説明がありました。話を聞きながら「いよいよこれから吉祥寺での生活が始まるんだ」という期待と不安で胸がいっぱいになりました。

ホームでは１年を通して四季折々の行事が催されます。わたしも当初は元気でしたので調子に乗って得意の「ドジョウすくい」を披露させていただくなど楽しく暮らしていました。

一方で歳をとるごとに持病の喘息や頑固な腰痛に悩まされ、時には入院することもあり、悲喜こもごもの生活を送っているうちに、あっという間に過ぎた20年でした。

このホームにきた頃、わたしはまだ70才そこそこでしたが今ではもう90才を超えました。

これまでを振り返ると大変なことが圧倒的に多かった人生でしたが、そんな中でも嬉しかったことや感激したこともたくさんありました。最期は、これまでお世話になった人たちに感謝しながら「苦労も多かったけど、そこそこ面白い人生だったなあ・・・」と思いながら旅立てそうな気がします。

吉祥寺老人ホーム名物
【大相撲吉祥寺場所】

10月17日、ご利用者の大完成と暑い眼差しの中、今年も体育祭のメインプログラム、男性職員による大相撲が行われました。職員の手作りとは思えない本格的な化粧まわしや行事の衣装が、にわか力士たちを引き立てます。

この相撲は平成10年の体育祭から始まり、今年で17回目。体を張った真剣勝負は毎回観る人たちの気持ちを踊らせます。

相撲は神事であり、ご利用者が幼いころから身近なものとして親しんできたものです。「きっと喜んでくれるに違いない」と始めた相撲。しこ名も現役力士たちの名を真似たものもあれば、【飢餓錦】【女遊山】など見た目やイメージから付けられたユニークなものまで。他部署の男性職員も駆り出される大掛かりな相撲大会となるのです。あいにく土俵は小学校から借りるマットですが、清めの塩も準備し、雰囲気は立派な大相撲吉祥寺場所。

身体に擦り傷を作る職員が例年出ますが、それも真剣勝負ならではの醍醐味です。上半身裸のにわか力士がぶつかり合い、投げられたり、押し出されたりする姿に歓声と拍手喝采が送られるのです。

ホーム開設から20年、様々な行事が行われてきました。バスハイク、季節の移りかわりや節句ごとの催しとお茶会。「夏祭り」「さつき祭」「体育祭」「年忘れ会」など、ご利用者だけでなく職員も楽しむことを大事にしてきました。その中で、大相撲吉祥寺場所は毎年の体育祭の中での名物となりました。職員の顔ぶれは変わっても、やる気と意気込みは充分。ご利用者に喜んでもらえるよう、職員はこの相撲のために？体を鍛える毎日です。

今の横綱は【武蔵関】（室長です！）優勝回数は16回。さて、来年の優勝は誰？？

やる気満々の力士たちによる土俵入り！
他部署からも男性職員が多数参加しての取組です！

見事に勝ち抜いてきた【風稲城】と横綱【武蔵関】との大一番！
今年も横綱の優勝で幕引きとなりました！

結びの一番。
さて、決勝戦のゆくえやいかに！
両者気合十分です！

横綱より一言!!

武蔵関
園田室長

今では毎年、恒例となった職員相撲は年々気合いが入り、仕事の昼休みには黙々と筋トレで体を鍛えている職員もいるほどです。子供のころ、田舎町の祭で行われる相撲大会では賞品目当てに奮闘していたものですが、さすがに年をとるにつれて体が思うように動かなくなってきました。でも、まだまだ若い者に負けるわけにはいきません。「未だ木鶏たりえず」を信条に、ジョギングやウォーキングで足腰を鍛えるとともにダンベルを使っての筋トレや腕立て伏せに励む毎日です。

男性職員ばかりではありません。女性職員は【尻相撲】を行います、背の高さや構えの形、おしりを突き出すタイミングもあるので、どの勝負も勝敗が予想できません！！

相手の出方をうかがいながら･･･
さて結果やいかに!?

とってもいい勝負！
はたしてどちらが勝ったのでしょうか?!

他に女王の座を譲らず、
見事に優勝した瞬間！
ベストショットです♪

女王より一言!!

K職員

平成18年度から、女性職員によるプログラムとして尻相撲が始まりました。笑いや応援などで大いに盛り上がるなど好評で、以後は定番となっています。初めは、少し恥ずかしい気持ちもありましたが、運動会当日の皆さんの声援や期待の眼差しに後押しされ、やる気十分です。男性職員の大相撲に負けないように気合いを入れて頑張りました。

結果、今年も【おしりの女王】になることができました。まだまだ、他の女性職員に女王の座を譲るわけにはいきません。来年も、声援よろしくお願いします。

体育祭 名場面集!!

選手宣誓！

ご利用者代表による選手宣誓！
赤組白組どちらも頑張ってください♪

パン食い競争

こちらは恒例のパン食い競争。
手で持っても良いんです！

応援合戦！

応援合戦もご利用者が楽しみにしている出し物のひとつです！
かわいらしいコスチュームで応援しました！

ボール送り

こちらも恒例のボール送り。
真剣なまなざしで競技に取り組んでいる姿が印象的でした！

ナーシングホーム　敬老祭

吉祥寺ナーシングホームでは、今年も折々に様々な行事を行ってきました。

春にはお花見、夏には中庭で花火、そして先日の9月15日には「敬老の日」のお祝いを行いました。今回は、その時の様子をお伝えしたいと思います。

敬老の日は、午前中の式典に始まり、昼食のお祝い膳を挟んで、午後にはボランティアさんによる余興の披露まで、盛り沢山の一日になります。

とても大きな行事なので、迎えるにあたっては、9月に入ってすぐに準備を始めることになります。

敬老祭の式典はご家族やご来賓の方々にも大勢ご出席いただき、少し厳かな雰囲気で行うのですが、ご利用者の皆様にも普段よりもお洒落をしていただくようにしています。

そこで当日ご利用者の皆様が着る服を、職員が一緒に準備するところから始めます。

色・柄・形などの好みを聞いて、職員の意見も交えながらその方の好きな、あるいはその方に似合う洋服を一緒に選んでいきます。

「この柄じゃ派手かしら？」「紫色がいいわ」等と熱心に吟味される姿もあり、特に女性は洋服を選ぶときの表情が華やぐことを再確認するひと時でもあります。

もちろん男性にも好みを確認しながら準備し、式典出席用の洋服は「敬老の日用」と書かれた袋に入れて保管しておきます。中には、お洒落着をご自宅から持参されるご家族もいて、特別な日を迎える準備をしていきます。

そして次に会場となるコスモス広場の準備です。正面に飾る花文字や、掲示用に賀寿の皆様のお名前の印刷、そして敬老の日の前日には紅白幕や生花で飾り付けをして、会場を華やかにします。

コスモス広場は、普段はデイサービスで地域の方に使用していただいている部屋ですが、紅白幕で飾り付けをするとまるで違う場所のような雰囲気になります。

初秋とはいってもまだまだ残暑の時期、汗をかきながら準備をするのは大変ですが、年に一度の大切な日のために職員も張り切って会場設営をします。

いよいよ敬老の日当日。去年は大雨で、ご出席くださるご家族やご来賓の方々にとっては大変な日でした。でも今年は天気が良く、朝からまさ

毎年恒例の花文字　今年は『絆』

敬老祭では毎年、式典の司会を担当する職員が、ご利用者にも手伝っていただきながら花文字（一文字）を制作しています。そしてそれを当日の式典会場に飾りつけるようにしています。これまで数々の一文字が出てきましたが、今年は「絆」でした。

東日本大震災があってから、様々なところで使われるようになってきた文字です。

絆は、ご利用者とそのご家族とで結ばれ、その中にボランティアさんやサポーターさん、そして施設職員も入って太く紡いできた、私達にとっても欠かすことのできない大切なものです。第20回の敬老式典を前に、改めてこのことを思い返して、この「絆」の文字を選びました。

に秋晴れでした。

午前中の式典は今年もご家族や来賓の方々に大勢ご出席いただき、盛大に行われました。普段とは少し違う雰囲気に、少し緊張している様子のご利用者も。

式典は、まずは施設長の挨拶から始まり、来賓の方々の祝辞へとうつるのですが、真剣な表情で耳を傾けるご利用者皆様の姿がとても印象的でした。

次に、賀寿の方を紹介します。今年は総勢25名の方が賀寿のお祝いの対象でした。その内90歳以上の方が24名、さらにその内のお二人は今年で一〇〇歳になります。吉祥寺ナーシングホームは50名の方が生活されていますので、その約半数の方が90歳以上ということになります。

ご利用者代表ご挨拶
木村幸夫さん

「長寿国」日本を牽引する元気いっぱいのご利用者の姿に、私たち職員も日々励まされます。

式典の終盤では、ご利用者を代表してお一人にご挨拶をいただきます。今年は、満95歳になる木村幸夫さんにお願いしました。

事前に木村さんの居室に担当者がうかがい、式典でご挨拶を頂戴したいとお願いしたところ、「いいですよ！」と迷うことなく快諾。式典の一週間も前から原稿を書いたりしながら、一所懸命準備をしてくださっていました。

実は前日まで「どうしよう、これでいいかな」と心配そうにしていましたが、当日は会場に通る声で、ご自身の若い頃の思い出も交えて、とても素敵なご挨拶をしてくださいました。用意していた原稿に視線を落とすこともなく、その姿にはご来賓の方々も感激するほどでした。

そして式典が終わると、皆様お待ちかねの昼食です。敬老の日の昼食は、特別メニュー！

敬老の日はこれが一番の楽しみ！というご利用者も多い、豪華なお食事です。今年のお祝い膳も品数豊富で彩りも綺麗、まるで宝石箱のようでした。

せっかくきれいなお料理なので、食べる前に記念写真をパチリ♪みなさんいい笑顔です。

そしてお昼の後の休憩をはさんで、午後には余興です。

今年は「ひばりアンサンブル」の皆様による楽器の演奏と歌のプレゼント。普段あまり耳にする機会のない木管楽器の音色に、うっとり。

皆様で一緒に歌えるようにとの選曲で、アコーディオンにヴァイオリン、サックスにクラリネットそしてピアノの生演奏で歌う赤とんぼ…、とても優雅で贅沢なひと時でした。

敬老の日は、皆様が本当に長寿で元気であることの喜ばしさを、改めて実感する一日です。

これからも、ご利用者の皆様に、より一層素敵な年輪を重ねていっていただきたいと思います。

デイサービスセンターの敬老祭

今年も、デイサービスセンター最大の祭典「敬老祭」が開催されました！9月8日～13日の1週間は毎日がお祝いムード。ご利用者はもちろん、ボランティアさんも職員も一緒に楽しい時間を過ごしました。

フロアの飾りも、ご利用者に協力していただき準備しました。午前中は体操や音楽プログラムなど通常の活動。そして、お昼からは一気にお祝いムードに！まずは「お祝い膳」お重に入ったお料理は見て良し食べて良し！毎日大好評でした！午後からは敬老祭本番。皆様への感謝の気持ちとお祝いする気持ちをお伝えしようと、職員も全員正装しました。

月曜日は敬老祭式典を開催。まずは施設長の挨拶から。施設長も先輩方がズラリと並ぶ前での挨拶は緊張されたことと思います。そして賀寿者のご紹介と記念品の授与を行いました。今年は賀寿の方々が38名、その中でも白寿（99歳）の方がお2人いらっしゃいました！毎年多くの方々をお祝いさせていただけるという事は本当に嬉しいことですね。

賀寿者の方々の紹介の後は、余興の方々をお迎えして楽しいステージがありました。月曜日はマジックショー、火曜日はピアノとトロンボーンのコンサート、水曜日はフラダンス、木曜日はフラメンコ、金曜日はジャズコンサート、土曜日は和太鼓。今年もたくさんの方々のご協力をいただき、笑顔と拍手に包まれた素敵な敬老祭を開催することができました！また来年もお祝いさせていただきますよ～！

9/17　フラダンス

9/16　ピアノとトロンボーン

9/15　マジックショー

お祝いムードの

敬老週間!!

記念品の授与

9/18　フラメンコ

9/20　和太鼓

9/19　ジャズコンサート

9/10の敬老膳

「だんだん畑」～介護者教室～

「だんだん畑」とは、皆さんと一緒に介護などについて“だんだんと知る、学ぶ、仲間同士でだんだんつながる交流の場”として、在宅介護支援センターで開催している介護者教室です。

一年間を前期と後期に分けて、シリーズとして開催しています。前期は**「認知症」**をテーマにしました。

第一回目は『認知症という病気への理解と対応』として、石澤敦クリニックの石澤院長にご講演いただきました。認知症の主な症状や日常診療の問診中での認知症を疑うポイントなど、実際に診察されている先生からのお話は大変勉強になりました。

第二回目は『認知症の方への対応』として、認知症専門相談員の菅先生のご講演とディスカッションを行いました。「認知症の人との生活を考える」ということで、接し方のポイントや認知症の方の気持ちについて学んでいきました。また、実例に基づいて「こんな時どのように対応したらいいのだろう？」ということを皆さんと考えながら、先生からもアドバイスをいただき、実際の介護に役立てるヒントをたくさん頂きました。

第三回目は『認知症の方への対応』として、特別養護老人ホーム相談員の講演とディスカッションを行いました。認知症の方の行動に対して、なぜそのような行動が起こるのか、どのような理解が必要なのか、また、それに対しての対応方法など、施設での実践例に基づいた話で、対応する側の考え方が在宅介護の場でも生かせるものもあったようです。

8月には『夏の特別編！』ということで、介護に向き合っている男性の皆さんとちょこっと呑みながらお話するという納涼会を開催しました。介護の話から、仕事、学生時代の話など色々な話題で盛り上がりました。参加させていただいた我々、支援センター職員も大変勉強になるお話も伺えて、楽しいひと時となりました。

第四回目は『認知症の方への声かけ体験』として、認知症サポーター養成講座を開催しました。“道端できょろきょろしている高齢者”“座って探し物を繰り返している高齢者”という設定で、そのような方に街で出会ったときに、どのように対応していくかを皆さんで考えながら、実際に高齢者役と声掛け役に分かれて体験していきました。様々なアイデアを出されながら声掛け体験をしていく中で、まずは安心してもらえる声掛けをすることが大切なのだ！ということが皆さんの感想の中から聞かれました。

第五回目はグループホームと特別養護老人ホームへの見学に行きました。

今後の介護者教室ご案内

後期のだんだん畑では**「歯のこと、話すこと」**などお口をテーマに歯科医師や栄養士の方からお話を聞いたりと五回シリーズで開催予定です。

この『だんだん畑』が皆さんにとって実りあるものになればと思います。今後とも宜しくお願い致します。

オレンジバンドは認知症サポーターの印！皆さんも認知症サポーター養成講座に参加してゲットしてください！

中華バイキング！

9月4日、養護老人ホームのご利用者に中華バイキング（麺と飲茶）を楽しんでいただきました。

まずは冷やし中華、ジャージャー麺、日本そばの3種類の麺から好きなものを選んでいただきました。冷やし中華は胡瓜・海老・卵・紅生姜で彩りよく、ジャージャー麺はピリ辛の肉みそが刺激的でした。中華麺が苦手な方にと用意した日本そばも人気で2種類召し上がった方もいたようです。

副菜の飲茶は5種類。パリパリの春巻きは普段の献立にあまり登場しない為か、選ぶ方が多かったようです。花咲シューマイはピンクの肉シューマイと黄色の魚シューマイの2色、こちらも中華らしく華やかでした。ほうれん草のナムルは女性に人気。一方、男性には〝ちまき〟が好評でした。

中華バイキングで選べた全メニューです！
一番人気はごま団子！
男女問わずの大人気ぶりでした♪

そんな中、断トツの1位だったのが、〝ごま団子〟でした。サクサクの衣と甘いあんこは男女問わず人気で、中には6個も召し上がったご利用者もいました。

自分の好きなものを選んで食べるバイキング。次の企画をお楽しみに！

秋メニュー紹介

この季節は食欲の秋、味覚の秋と言われるようにおいしい食べ物がたくさん出回りますね。9月は行事も多く、旬の食材を提供する機会がたくさんありましたので、いくつか献立をご紹介します。

まずは8日の十五夜。「中秋の名月」、里芋の収穫を祝い芋料理を食べる習慣から「芋名月」とも呼ばれているようです。吉祥寺ホームではおやつにお月見まんじゅう、夕食にさつま芋ご飯をご用意しました。

翌日の9日は重陽の節句。端午の節句や七夕の節句と並ぶ五節句の一つで、菊が咲く時期であることから「菊の節句」とも呼ばれ、長寿や繁栄を祈る日とされています。古来より、奇数は縁起の良い陽数と考えられその中で一番大きな九が重なるため、たいへんおめでたい日とも言われます。この日は昼食に菊ごはんをご用意しました。主菜の銀鮭の塩焼きにはすだちを添えて秋の香りもお届けしました。

敬老祭の日（15日）の昼食はお祝い膳でした。風味豊かな松茸ご飯、天ぷら、銀むつの西京焼き、炊き合わせには秋茄子・栗・もみじ型にくりぬいた人参など、秋を目でも楽しんでいただけるよう、心を込めてお詰めしました。ご利用者からも大満足！とのお言葉を多くいただきました。

9月9日
重陽の節句の献立
別名「菊の節句」
キレイな色の菊ごはんです。

9月8日
中秋の名月の献立
おやつはお月見まんじゅうでした！

9月15日
敬老祭の献立
お昼は松茸ご飯を含むお祝い膳！
季節感満載です。

ボランティア講座とサポーター研修

より安全に、より安心して、より満足したボランティア活動となるために、毎年ボランティア講座を企画しています。

今年度初めには基礎編として、『**高齢者とのかかわり方**』の講座があり、各施設別に開催し、講師は各室室長・主任にお願いしています。

ステップアップ編としては、『**認知症・健康・五感**』という分野で、外部講師をお招きして講座を開催します。

今年度は、次の二講座を予定しています。山本由子氏（武蔵野大学人間科学部　助教）に『**記憶のメカニズム**』というテーマで、また岡田慎一郎氏（介護福祉士・理学療法士古武術介護の提唱者）に『**古武術式カラダにやさしい生活技術**』と題して日常生活の中で、腰痛・膝痛・肩痛を防ぐための身体の動かし方を学びます。

さらに、充実したボランティア活動をしていただく為に、『**サポーター研修**』があります。講義・実技・実習という3本柱で、ボランティア活動に必要な知識・技術を習得していただき、全科目履修者で希望するボランティアにはサポーターボランティアとして活動していただきます。

その他、大人の社会見学ともいうべき研修もあります。高齢者施設、ホスピス、リハビリセンター等を訪問し、看取りや介護、老人ホームの歴史などを学ぶ機会としています。

初めてのバス研修（H16年）
ホスピス訪問後
紅葉の平林寺にて･･･

特筆すべきことは、ボランティアによるボランティア講座も少なくないということです。シリーズ化された佐藤博信さんによる『**歴史に学ぶ**』という講座のほかにも、活動するうえで必要なテーマで多数の活動ボランティアさんが講師を受け持ってくれました。

このような講座や研修は、至誠学舎の理念のもとにボランティア活動をより向上させる事のみが目的ではなく、講師の職員との交流、ボランティア同士の交流もあり、それはご利用者へ還元され、ご利用者のＱＯＬも高めると信じています。

ボランティア雇地千恵子さんの講座テーマは『驚きました！定年時と65歳 』（H16年）

五感・歴史に学ぶ バス研修

期日：11月28日（金）
時間：8時半～17時半
場所：夢のみずうみ村
　　デイサービスセンター
目的：
①ボランティア活動をより豊かなものにするための学び
②ボランティア自身の人生をより豊かにするための学び
③ボランティア活動に対する感謝の気持ちを伝える機会

自衛消防訓練審査

前日までの雨も上がり暑さの戻った平成26年9月2日（火）、武蔵野中央公園で、自衛消防隊訓練審査会が開催されました。

我が吉祥寺ホーム自衛消防隊は養護老人ホームと特別養護老人ホーム、それぞれの男性職員1名ずつで編成されました。勤務部署が違うため、出勤日を合わせて、勤務の合間に訓練をするのは難しく、練習も大変だったようです。それでも暑い中訓練を重ね、素晴らしい練習の成果を見せてくれました。両職員は審査会では大きな声と、きびきびとした動きで見事に**準優勝獲得！**本当にお疲れ様でした。

炊き出し訓練

最近、噴火や台風、大雨、地震等、自然災害による被害が増えています。吉祥寺ホームでは有事に備えて月に一度の防災訓練と、年に一度炊き出し訓練を実施しています。

平成26年10月16日（木）には、吉祥寺ホームゲートボール場にて避難訓練および炊き出し訓練を実施しました。「地震災害を想定した総合的な防災体制の検証」を目的とした訓練です。また、この日は近隣にお住いの方々で構成された「吉祥寺ホームを支えるグループ」にもご参加いただき、ご利用者の安全な避難を見守っていただきました。

ご利用者をゲートボール場まで避難誘導した後、炊き出し訓練の様子をご覧いただきました。ご利用者は落ち着いて行動していたようです。炊き出し訓練も毎年行っているためか、あわてることもなく着々と進んで行きました。

また、前述の自衛消防隊による自衛消防訓練の実技もご覧頂き、火災に対する備えの重要性も確認しました。ご利用者は普段の優しい雰囲気とは違い、凛々しく訓練している職員の様子に、安心感を覚えたのではないでしょうか。

実技後には自衛消防隊員の指導のもと、食事サービス室職員が、訓練用消火器を用いての実射訓練も行いました。

今後ともいかなる災害・有事にも対応できるよう訓練を積み重ね、ご利用者が安心して生活できるように、職員一同で心がけていきたいと思います。

お知らせ

例年夏号にてお知らせしておりました会計報告ですが、この度法人全体の会計報告を法人ホームページにてお知らせすることとなりました。お手数ですが、法人ホームページをご確認頂きますよう、よろしくお願い致します。

※社会福祉法人至誠学舎東京
ホームページアドレス
http://www.shisei-tokyo.or.jp/

おかげさまで２０周年…
社会福祉法人　至誠学舎東京
高齢者総合福祉施設　**吉祥寺ホーム**
〒180-0001　東京都武蔵野市吉祥寺北町2-9-2
TEL　0422-20-0800　FAX　0422-20-0897
URL　http://www.kichijoji-home.com/
発行責任者　大久保　実
発行　広報委員会